

2026年度第1回にいがた摂食嚥下障害サポート研究会講演会 報告

共催：新潟大学大学院医歯保健学研究科

後援：一般社団法人新潟県歯科医師会，一般社団法人新潟県歯科衛生士会

一般社団法人新潟県言語聴覚士会，公益社団法人新潟県栄養士会，公益社団法人新潟県看護協会

日時	2026年5月30日（土） 講演会：13時00分～17時00分，交流会：17時25分～18時30分
場所	新潟大学歯学部講堂，ZOOMによるハイブリッド開催
参加者数	講演会：151名（会場参加64名，ZOOM参加87名，オンデマンド配信参加は未計上） 交流会：40名
参加企業	講演会：7社（会場展示企業7社，ZOOM参加企業4社，重複あり） 交流会：9社

タイムスケジュール

- 13:00 開会挨拶
- 13:05 講演1「早期介入が未来を変える—集中治療からつなぐ摂食嚥下リハビリテーションと臨床研究」
講師 兼岡麻子先生（東京大学医学部附属病院リハビリテーション部）
- 13:55 講演2「公立藤田総合病院における摂食嚥下診療
— 簡便な舌接触補助床（PAP）製作を通じた食支援 —」
講師 鈴木 拓先生（あさひ歯科医院）
- 14:45 企業紹介
- 15:15 講演3「嚥下障害者家族の介護負担—私たちは家族をどのように支援していくべきか」
講師 中尾真理先生（名古屋市立大学 リハビリテーション医学分野）
- 16:05 講演4「嚥下調整食の診療報酬収載」
講師 藤谷順子先生（国立国際医療センター リハビリテーション科）
- 16:55 閉会挨拶
- 17:25 ワンコインカフェ

概要

本講演会では、4名の講師による講演が行われた後、参加者の交流会が実施された。

講演1では、「早期介入が未来を変える—集中治療からつなぐ摂食嚥下リハビリテーションと臨床研究」と題し、兼岡麻子先生にICUにおける早期介入の重要性、哺乳開始前から行う早産児向け包括的口腔運動プログラムPIOMIについてご紹介いただいた。また、日々の臨床疑問を研究によって解決することや、患者さんのデータを定量化して検証してみたり、エビデンスを調べたりしつつ研究と臨床をつなぐことの重要性についてご解説いただいた。講演2では、鈴木 拓先生に、「公立藤田総合病院における摂食嚥下診療— 簡便な舌接触補助床（PAP）製作を通じた食支援 —」と題し、マウスガードシートを用いた暫間的PAPについてご紹介いただいた。本装置は、簡便かつ非侵襲的に作製可能であるため、PAPの臨床導入のハードルを下げうる手法であり、参加者から多くの質問があった。次いで、本研究会の紹介を行った後、会員企業の紹介の動画配信とともに、来場者に対しては、企業展示を行い、最新の情報を提供した。講演3では、「嚥下障害者家族の介護負担—私たちは家族をどのように支援していくべきか」と題し、中尾真理先生に、嚥下障害を持つ家族の体

験に関する質問紙について解説いただいた。見えにくい家族の負担を質問紙を用いて見える化することで、家族を患者ケアの中心に置く視点を持ち、介護者の負担軽減につながる可能性を示していただいた。講演4では、「嚥下調整食の診療報酬収載」と題し、藤谷順子先生に新しく診療報酬収載された嚥下調整食の特別食加算についてご解説いただいた。学会分類のテクスチャーを守って提供するだけでなく、多職種によるミーラウンドや試食会、カンファレンスなど多面的な対応が必要であることが説明された。

いずれの講演に対しても、会場参加者およびZOOM参加者から多くの質問や意見をいただいた。

講演会終了後、「ワンコインカフェ」と称した交流会を開催した。参加者から提供いただいたソフトドリンクやお菓子などを食べながら、講師や参加者同士との有意義な情報交換を行うことができた。

参加者特性

職種別：歯科医師 54名(35.8%)、歯科衛生士 24名(15.9%)、管理栄養士20名(13.2%)、言語聴覚士 19名(12.6%)、医師12名(7.9%)、企業 10名(6.6%)、看護師 7名(4.6%)、理学療法士 3名(2.0%)、作業療法士 1名(0.7%)、臨床工学技士 1名(0.7%)

会員種別：会員 120名(79.5%)、非会員 29名(19.2%)、クラウドファンディングによる招待2名(1.3%)

地域別：新潟県内 103名(68.2%)、新潟県外48名(31.8%)



有壬記念館



開会挨拶 井上 誠先生



座長 辻村 恭憲先生



講師 兼岡麻子先生



座長 小貫和佳奈先生



講師 鈴木 拓先生



座長 吉原 翠先生



講師 中尾真理先生



座長 井上 誠先生



講師 藤谷順子先生



閉会挨拶 張替 徹先生



会場の様子



質疑応答



オンライン参加者



企業展示



ワンコインカフェの様子



参加者によるアンケート結果 (有効回答数53名 回答率45.0%)

1. 性別

①男性 25名 (43.9%) ②女性 28名 (56.1%)

2. 年齢層

①10 歳代 0名 (0.0%) ②20 歳代 1名 (1.8%) ③30 歳代 11名 (19.3%)
④40 歳代 16名 (28.1%) ⑤50 歳代 13名 (22.8%) ⑥60 歳以上 15名 (26.3%)

3. 職業

①歯科医師 13名 (22.8%) ②歯科衛生士 10名 (17.5%) ③言語聴覚士 10名 (17.5%)
④栄養士 7名 (12.2%) ⑤管理栄養士 5名 (8.8%) ⑥医師 2名 (3.5%)
⑦看護師 2名 (3.5%) ⑧理学療法士 2名 (3.5%) ⑨作業療法士 1名 (1.8%)
⑩臨床工学技士 1名 (1.8%) ⑪歯科衛生士・言語聴覚士 1名 (1.8%)

4. 今回の講演会は有意義なものでしたか

①まったくそう思う 51名 (89.5%) ②まあまあそう思う 6名 (10.5%)
③どちらとも言えない 0名 (0.0%) ④あまりそう思わない 0名 (0.0%)
⑤全くそう思わない 0名 (0.0%)

5. 今回の講演会はあなたの興味に対して適切でしたか

①まったくそう思う 44名 (77.2%) ②まあまあそう思う 11名 (19.3%)
③どちらとも言えない 2名 (3.5%) ④あまりそう思わない 0名 (0.0%)
⑤全くそう思わない 0名 (0.0%)

6. 講演内容の難易をどう感じましたか

①非常に分かり易い 34名 (59.6%) ②まあまあ分かり易い 20名 (35.1%)
③どちらとも言えない 3名 (5.3%) ④あまり分かり易くない 0名 (0.0%)
⑤全く分からない 0名 (0.0%)

7. 今後このような主旨の講演会を開催することについてはどう思いますか

①非常に賛成する 53名 (93.0%) ②まあまあそう思う 4名 (7.0%)
③どちらともいえない 0名 (0.0%) ④あまり賛成しない 0名 (0.0%)
⑤まったく賛成しない 0名 (0.0%)

8. 講演会で聴きたいテーマについて教えてください

- ・摂食嚥下障害に対して他職種で介入できること
- ・医療安全
- ・IDDSI
- ・地域医療にかかわる研究内容
- ・嚥下調整食について、学会分類に適した食事

- ・嚥下内視鏡検査について
- ・口腔機能低下症
- ・災害時のミールラウンド
- ・地域で取り組めるサポートの方法があるのか、取り組んでいる先生がいたらお話を聞きたいと思います。
- ・疾患別の摂食嚥下の実際やツールを用いた効率的なミールラウンドの実際など、本日のご講演を伺ってさらに伺いたいと思いました。特別食加算算定して社会保険局の監査も受けた施設の状況など1~2年後などに伺いたいです。
- ・頭頸部がんの術後やCRT後、気管切開や永久気管孔の患者の摂食嚥下
- ・STによる訓練効果
- ・嚥下評価の方法、栄養関係
- ・給食栄養に関するテーマ
- ・多職種カンファレンスをどのような流れで行っているのか知りたい、呼吸ケアと嚥下機能との関連性について
- ・新潟での嚥下障害支援全体の資源、連携、課題について
- ・病院、施設などでの摂食嚥下障害についての理解を深め、協力体制を作るような取り組み、教育的視点からのお話
- ・サルコペニアによる嚥下障害について
- ・嚥下調整食について
- ・VE, VFの評価について具体的に知りたい
- ・在宅における摂食嚥下支援
- ・VFの運動学的解析
- ・急性期の嚥下リハビリ

9. 今後、講演会では対面による実習を行うことを検討しています。

希望する実習内容があれば教えてください。

- ・嚥下調整食 IDDSI
- ・多職種での嚥下リハビリテーション実技
- ・嚥下調整食、とろみ剤の選び方
- ・嚥下内視鏡検査
- ・内視鏡 ミールラウンド
- ・口腔機能の測定
- ・スタッフのスキルアップのために医師、歯科医師、STなどの専門家がやっている最近の評価、訓練のポイントやスタッフに知ってほしい摂食嚥下障害の基本的な評価、訓練、介助方法など実習する機会があってもよいと思いました。
- ・勤務する病院でもVFやミールラウンドを行なっているが、自分はその時間帯に外来診療をこなしているので実際がわかりません。どの様にして行われ評価しているのか見てみたいです。又、日々の診療で気管切開や永久気管孔の患者の口腔ケアも実施していますが、喀痰吸引の問題が発生するケースもあります。実習で対策をご教示して頂けるなら有り難いです。
- ・嚥下食の調理実習
- ・t PAP、総義歯を使用してPAPの作成実習があれば、ぜひ歯科医師に勧めたいです

- ・完全側臥位での食事介助について、誤嚥、窒息した際の対処療法の実践
- ・嚥下食を使いながらの頸部聴診やVEの見学
- ・CARE-Jが使えるようになったら教えてほしいです。本日の講演で紹介のあったMBSImpの利用の仕方ややっている人がいれば教えてほしいです。
- ・物性、コードの共通認識
- ・VE実習、動画を見ながらのスクリーニング、VE, VF評価の実習
- ・嚥下エコーの実技、呼吸リハビリテーション

10. その他、ご意見があればお願いします

- ・オンラインでの参加できるように継続おねがいします！
- ・毎回新しい情報を教えていただきありがとうございます。ハイブリッドでの開催、ありがとうございます。
- ・今回の診療報酬の改定はハードルが高いと感じていました。藤谷先生の話聞いて少し頭の中が整理できたように感じます。
- ・大変勉強になりました、ありがとうございます。
- ・ありがとうございました。
- ・いつも貴重な研修会を開いていただきありがとうございます
- ・診療報酬改定についてのお話をタイミングよく聞けて良かったです。今後も不明点出てきそうですので、ぜひ情報を共有していただきたいです。
- ・運営大変お疲れ様です。ありがとうございました。